

相談室だより 2015年 7月号

米の山病院

上田 瞬

早いもので入職して、あと1ヶ月で2年になります。また今年度は、社会福祉士として業務についても10年目と、節目の年にもなります。今までは何事も沢山の方々から教えていただき、学び、吸収していくことばかりでしたが、この節目を境に今まで学んだことを多くの方に伝えていかなければと思っています。

その最初の取り組みとして昨年度から米の山病院での社会福祉士の実習生を受け入れていくための準備を行っています。そこで少し社会福祉士の実習について紹介させていただきます。

2007年12月に「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正により、社会福祉士の定義が見直しされ、社会福祉士の資質向上を図るための社会福祉士養成のカリキュラムも大幅に改正されました。これにより社会福祉士の現場実習では、平成21年度から実習施設において社会福祉士を目指す学生等への実習指導者となるものには、社会福祉士実習指導者講習会の受講が義務付けられています。それは学生たちにとって、実習指導者から指導を受けることでの影響は大きく、その実習指導者の質を担保していくことが重要だからということです。ちなみにこの社会福祉士実習指導者講習会は、日本社会福祉士会が厚生労働省から委託を受けている事業になります。

現在、このカリキュラムに沿った形で実習受け入れの準備を行っているところで、ようやく米の山病院での実習プログラムが出来上がりつつあります。その内容については後ほど、掲載させていただきます。

このプログラムを実施していくうえで、米の山病院の実習指導者が気をつけていきたい点としては実習中に実際の事例等を通して、社会福祉士として最も重要な”人”として“の倫理や価値観を、改めて考えていただくことです。また学生にとって、この実習が職業選択の1つとなるため、医療機関での社会福祉士の役割について理解していただき、少しでも医療機関で働いてみたいと思うきっかけになればと考えています。

新カリキュラムでの社会福祉士の実習指導は、まだ戸惑いがありますが、実習生の依頼や希望に沿う対応を一所懸命行なっていきますので、ご紹介等よろしくお願いたします。

実習プログラム					
通	区分	実習のねらい	プログラム(実習経験)	指導方法・指導上の留意点	必要な価値・知識・技術
事前学習(実習前)		①事前訪問にて実習の目的を実習指導者と話し合うと同時に、実習が円滑にすすむよう確認する。	<input type="checkbox"/> 実習指導の契約、実習課題の明確化をする <input type="checkbox"/> 職員に準ずるルールの確認をする 《事前学習の確認内容》 ・役割別の医療機関の分類 ・実習先医療機関の特徴について ・医療ソーシャルワーカー業務指針 ・援助に必要な各種福祉制度 ・各種支援アプローチ ・自身の死生観や人生観についての自己覚知 ・社会資源についての学習	・社会資源の事前学習については、実習医療機関で主に活用する制度や社会資源を具体的に提示し、混乱が生じないようにする。また実習学習してほしい疾患があれば、資料提供を行う。	価値 ・社会人マナーに従って実習を行うということの意識化、守秘義務 ・自己覚知 知識 ・医療保険、介護保険、生活保護、身体障害者福祉法 など 技術 ・スーパービジョン
	職場実習(1週目)	①実習先医療機関の所属する地域の特徴および取り扱っている疾病の特徴や地域における実習医療機関の役割を理解したうえで、社会福祉士が行っている業務や必要とされているニーズの理解する ②社会福祉士がどの医療間でも一律に同じ業務を行うのではなく、さまざまな歴史やニーズに基づき組織の一員として活躍しているということを理解する	<input type="checkbox"/> ①指導者からの口頭説明、資料説明、院内見学を行う。 <input type="checkbox"/> 病院の理念・使命 <input type="checkbox"/> 医療機関の組織についての理解(患者数・外来・入院の内訳) <input type="checkbox"/> 各部門の役割の理解 <input type="checkbox"/> 他職種連携について <input type="checkbox"/> 地域関係機関との連携の特色 <input type="checkbox"/> ②地域の関係機関へ訪問見学を行う(観察やインタビューの実施) <input type="checkbox"/> 地域関係施設、居宅支援の訪問見学 <input type="checkbox"/> 現在、医療機関がかかえる課題やシナジーおよび今後の動向について説明を受ける	・指導者からの左記についての口頭説明や資料提示、院内見学等により理解を深めてもらう 訪問見学の関係者から了解が得られれば、インタビューや観察等によりレポートにまとめてもらう。	価値 ・チーム医療 ・守秘義務と情報共有 ・各専門職の役割理解 知識 ・組織論 ・地域連携 技術 ・地域アセスメント ・コーディネイト機能 ・アウトリーチ
職場実習(2週目)	専門家(SW)・対象(OI・家族)理解	①組織の枠組みの中における社会福祉士の存在意義についての理解を深める ②院内外関係機関との連携の在り方について理解を深める ③個別支援から見えてくるニーズを院内にどのように還元し、病院機能の質の向上に社会福祉士が貢献できるかを知る	<input type="checkbox"/> ①ソーシャルワーカーの日常業務全般に同行し観察をさせ、医療機関におけるソーシャルワークの位置・役割・機能について説明する <input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 電話相談同席 <input type="checkbox"/> 入院時スクリーニング <input type="checkbox"/> インテーク面接、アセスメント、契約、援助計画立案、介入、モニタリング、最終の流れ <input type="checkbox"/> スタッフとの関係調整 <input type="checkbox"/> 各種ミーティング・カンファレンス <input type="checkbox"/> スーパービジョン場面 <input type="checkbox"/> 回診、病状説明同席 <input type="checkbox"/> ②観察中に登場した社会資源を挙列し調べる <input type="checkbox"/> 地域の勉強会に参加する <input type="checkbox"/> 部門内の社会資源資料を確認する <input type="checkbox"/> ③社会福祉士が参加している会議資料を通読する <input type="checkbox"/> 会議へ同席参加する	・観察、記録、理解について指導する。事実(実際に起きたこと、現象)、ソーシャルワーカーが考えていたこと、実習生に説明したこと、実習生が感じたことを分けて観察、記録、理解するよう促す ・社会福祉士倫理綱領や理論と実践の結びつきを伝える ・院内の会議に社会福祉士が参加している目的や意義について説明を行う	価値 ・秘密保持 ・プライバシーの保護 ・ワーカビリティ 知識 ・各種社会資源 ・無料低額診療事業 技術 ・ネットワーキング ・観察力、観察による情報収集と理解 ・情報収集力、情報収集の方法 ・ソーシャルアドミニストレーション ・ソーシャルリサーチ ・ソーシャルアクション
	ソーシャルワーク実習(3・4週目)	①ソーシャルワークの価値・倫理をおさながら、組織の枠組みのなかでソーシャルワークをどのように展開しているのか、業務内容や役割についての理解を深める ②医療機関で働く社会福祉士としての資源・技術・倫理・自己に求められる課題を把握し、総合的に対応できる能力を確認、習得する ③疾患がもたらす生活障害や心理社会的問題について理解する ④クライアントのニーズや他職種の関わりの程度により、社会福祉士の介入の度合いも異なるためアセスメントの重要性を理解する ⑤事例を通して院内外の他職種連携をはじめとするチームアプローチや社会資源活用の実践について学ぶ ⑥面接体験を通じて、援助関係の形成、面接技術の活用、自己覚知を深める ⑦記録の記載を体験することで事例のアセスメントや自己の着眼点について洞察力を高める ⑧スーパービジョンの必要性を理解する ⑨サポートグループやサロン、患者会等グループダイナミクスを活用した支援の理解を深める ⑩職能団体の必要性とその活動について理解する	<input type="checkbox"/> ①②～⑧を以下の経験を通じて総合的に学ぶ <input type="checkbox"/> 事例の同席や記録を通して、ニーズ把握の方法やインテーク面接から援助実施までの一連の過程について説明する。その際、過程で用いるツールや制度利用の手続きについても説明をする <input type="checkbox"/> タイプの違う数事例を選び、スーパーバイザーと共に、ニーズ把握、基礎情報の整理、アセスメント、プランニング、援助実施を行う <input type="checkbox"/> スーパーバイザーが許可できる対象者を選定し、実際に利用者との面接を行う。利用者との面接が困難な場合は、ソーシャルワーカーとロールプレイを取り入れる <input type="checkbox"/> 1事例をまとめる <input type="checkbox"/> 事例をもとにスーパービジョンを体験する <input type="checkbox"/> ⑨サポートグループ、患者会を見学する <input type="checkbox"/> ⑩各種勉強会等へ参加する	・個別支援とグループを活用した支援の特徴の違いや留意点等について観察から理解できたことを確認するとともに説明を行う ・カンファレンスや地域ケア会議等を積極的に同席させ、招集、運営、進行についても考えさせたり指導する ・部門で開催される勉強会へも参加させてみる。どのように企画・実施されているのかを説明する ・連携の核となっている地域関係者とは何を目的としてどのように連携を深めているかを説明し、ネットワークングの実践を伝える ・面接場面のスーパービジョンでは、どの技法を使っていたか、フィードバックする ・心理・社会的問題は個別であり、環境に左右されることを事例をとおして説明する ・資料学習	価値 ・クライアントの利益の優先 ・権利擁護 ・自己決定の尊重 ・ワーカビリティ ・自己覚知 ・チームアプローチ 知識 ・疾病、医療用語の理解 ・生活障害、病者役割の理解 ・家族システム ・家族支援理解 ・他職種理解 ・エコマップ、ジェノグラム 技術 ・情報収集、情報解析、アセスメント ・各ソーシャルワーク理論(例 医学モデル、生活モデル、危機介入モデル等) ・ソーシャルサポート ・ネットワーキング ・ケアマネジメント ・グループワーク ・コミュニケーション技法 ・面接技術・記録の技術 ・コンサルテーション ・ラポール形成



よく聞きます はっきり話します しっかりと見ます